

☆天文の基礎知識

——今年の「中秋の名月」——

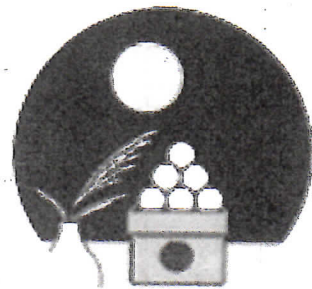
旧暦(正しくは太陰太陽暦と言う)では7月・8月・9月の3か月を「秋」と言い、8月がその真ん中なので「中秋」で、8月15日に見られる月を「中秋の名月」と言っています。

そのように「中秋の名月」が見られる日は旧暦で決められているので、いつもみなさんが普通に使っている暦(太陽暦と言う)では早い年や遅い年があり、今年(2020年)は10月1日で、昨年(9月13日)よりだいぶ遅いです。

今年、このように「中秋の名月」を見られる日が遅くなったのは、この「星空情報」の今年2月号に書いたように、旧暦4月の次に「閏4月」という月があったために、5月以後がすべて1か月ずつくり下がったためです。

しかし、旧暦の1か月は29日か30日までで、1年間も354日しかないのだから、一般に太陽暦より早く暦が進み、来年の「中秋の名月」が見られるのは、太陽暦の9月21日、再来年は9月10日で、今年よりだいぶ早くなります。

また、正確な資料によると、今年の「中秋の名月」と言われる10月1日の夜には完全な満月ではなく、満月になるのは次の日10月2日の午前6時5分です。従って、10月1日の月は、満月より10時間くらい前の月で、向かって左端がまだ少し欠けています。逆に「十六夜」と言われる10月2日夜の月は、満月を10時間くらい過ぎていて右端が少し欠けた月です。でも、そのどちらも目で見ただけでは分かりにくいくらいの欠けぐあいですから、丸い大きな月を二晩つづけて見られます。



8月12~13日、ペルセウス座流星群144個を観測

毎年お盆の前日流れ星がたくさん出現する『ペルセウス座流星群』の観測会が、長坂山で行われました。この観測会は、「銀河宇宙探検隊」の中・高校生の育成をねらいに講師(当会の会員)が開催。

観測は、中央に記録係が一人いて、ほかのメンバーは空全体を分担し、流星が出たら「出た!」と言った後、明るさや出た星座名(方角)・速さ・色などを言います。記録係は常に時計を見て、出た時刻を秒まで、そして報告された内容を記録。これを夜通し続けます。時には一度に何個も出たりして記録係は大変です。22時37分ころには、マイナス7等級という金星よりも明るい「火球」が出現し、緑からオレンジに色が変化し途中で分裂。「ワーッ!すんげえー!」と大さわぎになりました。

午後12時ころのお楽しみ「夜食タイム」は、カップめんを食べてワイワイガヤガヤと楽しい一時です。

観測した全体の流星数は235個で、その内流星群に属する流星は144個ありました。最後に朝焼けの黒森山をバックに笑顔で記念写真を撮り、午前4時ころ山をおりてきました。天気も奇跡的に晴れ最高の観測会でした。(右の写真は当日の観測風景)

